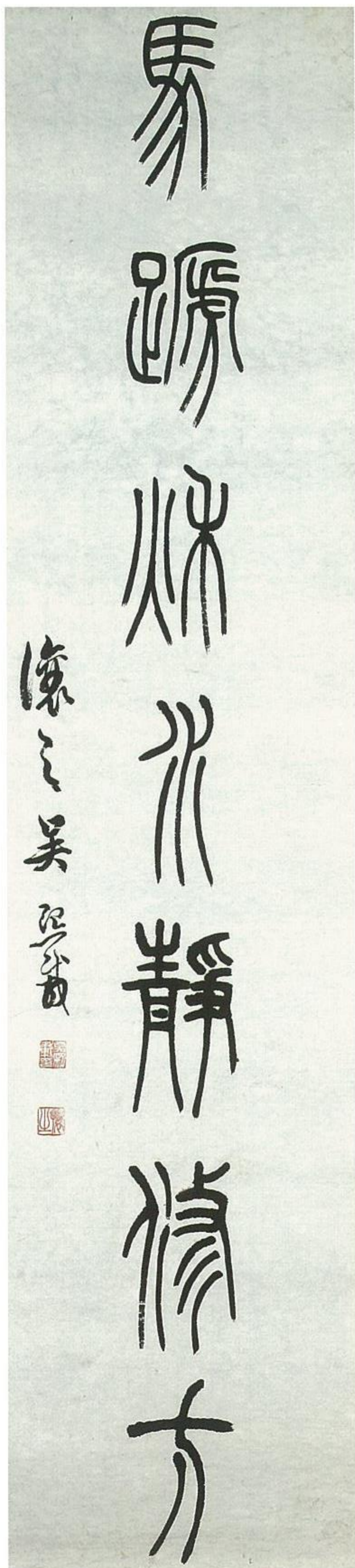


吳讓之 篆書對聯

清 紙本墨書
各一三四・五 cm × 三一・五 cm

〔積文〕虎尾春水安樂法／馬蹏秋水靜修方／讓之吳熙載



〔吳熙載印〕
（白文）2.3×2.3
〔叢刊〕吳 I-43
〔上海〕446
〔近現代〕276



〔讓之〕
（朱文）2.3×2.4
〔叢刊〕吳 I-43
〔上海〕446
〔近現代〕277

〔略伝〕

嘉慶四年（同治九年（一七九九）一八七〇）、原名は廷颺、字は熙載。晩学居士、言庵など号した。包世臣の門に学んだ。吳讓之の居を「師慎軒」と呼ぶが、これは師・包世臣の字である慎伯に因んだものである。江蘇儀徵の人。詩文を良くし、金石の学に深く、書画に長じたが、その第一とするところは鄧完白を学んだ篆刻で、これは諸家の評が一致するところである。書は各体に通じ、篆書は天発神識碑を、隸書は数多くの漢碑を範とし、草書は書譜を学んだ。画はその士気あるを評された。印譜に『師慎軒印譜』などがある。